



年 組 名前

道新でワークシート

地球の課題 より身近に

国連が提唱する「持続可能な開発目標（SDGs＝エスディージーズ）」。「その言葉を耳にしたり、掲げる17の目標のカラーをあしらったロゴを目にすることが増えてきた。道内でも自治体や企業が動き、市民向けの講演会が相次いで開かれ、大学や高校、中学など教育現場にも取り入れられ始めた。地球の課題を身近に考え、地域の未来につなげる取り組みが広がっている。

国連が17の目標提唱

福祉・人材育成に重点



SDGsは2030年までに達成すべき世界共通の目標だ。すべての国連加盟国が15年に合意した。地球温暖化で多発する異常気象、生態系の破壊、途上国での水や食料、エネルギーの不足、先進国の少子高齢化や国内格差の拡大など、このままでは地球が「持たない」、日々の暮らしが「続けられない」という危機感が背景にある。「持続可能」とは、50年後、100年後、あるいは千年後の未来の世代に、きちんと地球や地域を手

渡せることだ。そのために、環境を守り、貧困や格差をなくし、福祉や教育を充実させるなど17の大きな目標を作った。

17の目標の下には169の具体的な目標を設定している。例えば、目標1の「貧困をなくそう」には「30年までにあらゆる貧困状態にある人の割合を半分にする」、目標12の「つくる責任、つかう責任」には「30年までに世界全体の1人当たりの食料の廃棄を半減させる」などが示されている。他に30年までのエイズ、結核、マラリアの根絶や、20年までの交通事故死傷者の半減なども挙げる。

日本語で「開発」と言いつつ、

政府開発援助（ODA）や開発局の行うハード面の整備を考えがちだが、SDGsは教育や福祉、人材育成などソフト面に重点を置く。また、これまでの国連の開発目標と違い、途上国への支援だけでなく先進国が国内で取り組む課題を多く盛り込んだ。貧困や飢餓についても、アフリカやアジアの貧しい人の話だけでなく、「相対的貧困」や「子どもの貧困」などを含め道内にも身近な課題だ。

北海道は、自然エネルギーや生物多様性の宝庫とされ、食料生産の拠点でもある。一方で、開発に伴う自然環境の破壊やJR北海道の路線廃止問題に表れる過疎化、アイヌ民族の人権など独自の課題も多くある。



2019年3月5日（火）朝刊から15面（記事は一部編集しています）

①SDGs（持続可能な開発目標）が設定されたのはなぜですか？記事を読んで要約しましょう。

②17の目標から1つテーマを選び、その目標を実現するための具体的な方法を考えてみましょう。